

●7月17日(月)

9時30分～11時30分 MIT訪問&学生とのキャンパスツアー

13時15分～14時15分 企業訪問(施設内訪問&担当者からの説明)

15時30分～17時00分 オリエンテーション(ホームステイ、交通機関利用、諸注意)

\*\*\*\*\*

「北雄の翼」、最初のプログラムはMITへの訪問です。現役の学生(院生)、および先日卒業し、ハーバード大学にて次のステップ(研究継続)が決まっている学生2名のガイドのもと、チャールズ川を南に臨む美しく広大なキャンパス内を巡りました。キャンパス周辺に立ち並ぶ関連(提携)研究施設、関連団体や企業を含めるとその規模の大きさは驚くほどですが、歴史を感じる重厚な建物の数々、一方でガラス越しに惜しげもなく開放している研究室、実際に行っている授業やミーティング風景など、言うまでもなく常に世界トップランクの大学ながら、オープンな雰囲気とその懐の深さ、広さのようなものを十分に味わうことができたのではないのでしょうか。今回、ガイドいただいた方々2名うち1名は日本人(ただし日本滞在は幼少期のみ)、英語でのレクチャーにてスタートしたものの、生徒からなげかけられた多くの質問に熱心に、丁寧に答えたい思いから後半はほぼ日本語での説明に。彼自身のバックグラウンドやこれからの目標、インターネットからはわからないMITに関する様々な情報や当大学ならではのエピソードを深くうかがうことができたことは、むしろラッキーでした。一方のグループの学生も日本語担当(日本語含めて複数言語話者、日本語は独学3年ほどでマスター!)でしたが、こちらのグループは終始英語でのレクチャー、質問に挑んでいたようです。昨日とは一転、強烈な日差しと30度近い炎天下を歩き続けていましたが、いずれのグループも決してついてまわることなく、美しいキャンパスの写真を撮りつつも、集中を維持し憧れのMITの雰囲気を楽しむことができたようです。教室等を設けて、彼らの専門や経験についてさらにじっくりと話を伺う、あるいは落ち着いた憩談機会をつくることができれば・・・、と思うほど生徒たちからもどんどん質問がなげかけられていました。生徒たちの熱意にこたえ、単に質問への回答に留まらず、アドバイスや提言、発言への思いや理由なども伝えていただき、たくさん学びを得る時間となりました。

午後のアクティビティ(企業訪問)では、「CIC: Cambridge Innovation Center」を訪問しました。同施設は、スタートアップ企業(または個人)等にオフィス空間や管理サービスを提供する起業支援組織。スタートアップだけでなく、ベンチャーキャピタル、大企業、起業家、コンサルタント、政府関係者等も集まり、イノベーションや新規ビジネス創出のためのコミュニティー作り、環境を提供しています。本施設内に入居する企業から2名のゲストにお越しいたいただき、施設内のツアー含め、彼らにとってのCICの意味と、当企業もたらす影響と役割について説明をいただきました。“テクノロジーとイノベーションはこれからの将来に不可欠”という考えのもと、あえてMITのあるケンブリッジエリア(建物はMIT隣接)に社屋を構えたのは、「知識、技術はあるが、世に出なければ意味がない。つまり、大学(学者、研究者)のリソースと世界(社会)を“つなぐ”役割、そして小さな個のアイデアから大きな価値、可能性を生み出す役割を担う」ため、との説明は新しいビジネスモデル、かつすでにアメリカでは成果とともに広まっているシステムとして、大きな学びになりました。cooperationを超えて、collaborationすることでの意義をまさに実践的に活用し、成果を出しているのがまさに『CIC』のもつ意義であると感じました。

ホテルに戻ったのは、あらためて2名のコーディネーター、およびホームステイを手配いただいている団体から日本人代表に来ていただき、オリエンテーションを実施。アメリカ、特にボストンエリアでのホームステイ研修の注意と心得、そして交通経路と利用注意についてもたくさんの情報とアドバイスをいただき、生徒たちの準備も整ったことでしょう。あとは、個々生徒のチャレンジ、アクションにより、大いに楽しんでもらいたいと思います。各滞在エリアにわかれ、生

徒たちを乗せたバン（４台分乗）は、期待と不安のなかファミリー宅へ出発いたしました。

現地二日目の報告とさせていただきます。

\*\*\*\*\*



